

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和2年度採択）

事後評価（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2020-5	車道基本の自転車通行環境整備による交通事故特性と新たな道路交通安全改善策に関する研究開発	大阪公立大学大学院 准教授 吉田 長裕	B

<研究の概要>

自転車の車道走行と広域化に伴う事故特性を把握し、自動車・自転車のコンフリクトを再現する仮想道路空間実験による科学的知見に基づき、新たな道路交通安全改善策とともに持続可能な安全の段階的向上策を提案する。

<事後評価結果>

- ・大規模交差点において、最も数が多く重大事故が起きやすい左折自動車と直進自転車が遭遇した場合について、多くの知見が得られていて有用である。一方で、その対策としては具体設計要素の提案がやや具体性に乏しく、研究成果が活かされてい印象が残る。
- ・引き続き研究が必要な部分が残されているように思われる。
- ・安全性の評価を実験という形式でできるので、大いに成果があったと考える。結果としてどういうところでどういう対策がいいかという結果がもう少しわかりやすく提示されることを期待する。
- ・実環境での検証が難しい交通安全対策について、仮想空間や被験者を用いて多角的に検証しており、安全な自転車通行空間の整備に向けた研究目標は概ね達成されている。
- ・個別の課題については高度で有益な成果が得られており、今後の発展性も期待できる。研究成果の実務への適用に向けて更なる研究の進展を期待する。
- ・統計データ分析、観測、およびシミュレーション実験という多面的なアプローチにより、自転車に関して包括的かつ有用な研究成果が得られている。
- ・車道上の自転車の安全改善策の検討に有用なツールを提示するとともに、大規模信号交差点の対策についてツールを用いて一連の検討を行い安全改善策の提案ができた。

このことから、研究目的は概ね達成され、研究成果があったと評価する。

<参考意見>

- ・仮想空間を用いた対策検討の手法について、今後手法を一般化するためには、現況再現での留意点、被験者の慣れへの対応等、より実務的な項目を整理する必要がある。
- ・今後は、ツールの構築方法や使い方、利用が期待される場面などをとりまとめ、広く活用可能なツールとすることが望まれる。また、本研究での大規模信号交差点の対策提案のような、実務への提案事例を増やすことが望まれる。
- ・必要性が大いに感じられるので、さらなる研究継続に期待する。特に自転車に特化した対策案や新モビリティ対策の確立が望まれる。

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第50回新道路技術会議において審議したものである。